

総務教育常任委員会資料

(平成29年5月19日)

〔件名〕

- ・鳥取市の中核市移行に係る調整状況について 【人事企画課】・・・1
- ・ふるさと納税による寄附受入状況等について 【財源確保推進課】・・・2
- ・母子父子寡婦福祉資金貸付金の償還金等の口座引き落としの誤りについて 【財源確保推進課】・・・3
- ・'17食博覧会・大阪でのブース出展及びPRについて 【関西本部】・・・4
- ・名古屋における情報発信等について 【名古屋代表部】・・・6
- ・県市町村歴史公文書等保存活用共同会議の設置について 【公文書館・政策法務課】・・・7
- ・企画展「県政顧問が見た50年前の鳥取県」の開催について 【公文書館】・・・8

総 務 部

鳥取市の中核市移行に係る調整状況について

平成29年5月19日

地 域 振 興 課
福 祉 保 健 課
環 境 立 保 推 進 課
教 育 立 保 推 進 課
教 育 立 保 推 進 課
行 政 改 革 局 人 事 企 画 課

鳥取市の中核市移行に向け、現在の市との調整状況について報告します。

1 円滑な事務引継

事務事業ごとに、県の移行支援プロジェクトチーム及び市の部会において事務マニュアルや引継書、予算要求等に係る資料などをもとに事務引継ぎを行っている。

さらに、市における例規整備や附属機関の設置等に係る基準の摺合せや事務執行に活用する市のシステム整備に係る県との連携・引継などの具体的調整を進めている。

2 保健所業務の移管・委託

鳥取市が中核市に移行し保健所を設置した場合、東部4町域の保健所業務を市に委託する方針で、市の区域と東部4町の区域の保健所業務を円滑かつ確実に引き継ぐことができるよう調整を進めている。

(1) 保健所移行実践検討チーム・ワーキンググループ（平成29年4月13日設置）

4月26日に第1回チーム会議を開催し、市と県の事務の差違等も考慮し、市における事務の流れや県の中部西部圏域の保健所との業務連携等も踏まえた実践研修・訓練等の計画を8分野のワーキンググループにおいて作成することを決定した。

当該計画に基づき、5月下旬からの実践研修等の実施を予定している。

(2) 東部4町区域に係る保健所業務の県から市への委託（中核市移行の政令公布後を予定）

地方自治法第252条の14の規定により、市との協議により規約を定め、市に管理執行を委託する。県と市の協議にあたっては両議会の議決を必要とする。

〔規約に掲げる事項〕

- ・委託事務の範囲並びに委託事務の管理及び執行の方法
- ・委託事務に要する経費の支弁方法 等

3 市の組織・人員体制の検討状況

鳥取市では、県の事務処理体制を引き継ぐことを基本とし、平成30年4月の移行時に約75名（正職員）の増員配置を予定している。このうち、県は約50名の職員の派遣などを行う。

県は、中核市移行後、市において必要人員を独自に確保されるまでの間は、行政サービス水準を維持継続するため、県から職員派遣など必要な支援を行う。

(1) 人材育成

平成28年度から市職員の長期研修を県の東部福祉保健事務所及び東部生活環境事務所において実施するとともに、短期の業務研修等も行いながら、業務への習熟を進めている。

- ・長期派遣 平成28年度 1名（保健師）
（県受入） 平成29年度 8名（保健師、管理栄養士、事務職）

(2) 職員採用

平成30年4月に向けて、市は、平成28年度までに7名（保健師2名、事務職5名）、平成29年度中に13名（保健師、管理栄養士、歯科衛生士、衛生技師、事務職）の職員採用を予定しており、計画的に必要な人数の確保を進めている。

4 今後の主な予定

- ・5月下旬 第2回保健所移行実践検討チーム会議
- ・6月上旬 第8回鳥取市の中核市移行に関する県・市協議会
- ・6月定例県議会 「中核市指定に係る申出の同意」議案を提出

ふるさと納税による寄附受入状況等について

平成29年5月19日
財源確保推進課

1 平成28年度寄附受入状況

(1) ふるさと納税

県全体では、過去最高となりました。(県分は鳥取県中部地震復興がんばろう寄附に重点的に取り組んだため半減したものと推測されます。)

年度	県		市町村		合計	
平成28年度	7,940件 (9,698件)	16,883万円 (42,065万円)	176,180件	328,122万円	184,120件 (185,867件)	345,005万円 (370,147万円)
前年度比	0.6倍	0.5倍	0.9倍	1.1倍	0.9倍	1.0倍
平成27年度	14,448件	36,070万円	186,062件	308,117万円	200,510件	344,187万円
平成26年度	6,779件	17,051万円	144,377件	199,163万円	151,156件	216,213万円
平成25年度	24,198件	33,607万円	54,369件	78,693万円	78,567件	112,299万円

※括弧書きは、鳥取県中部地震復興がんばろう寄附金を含んだものです。

○ 受入額の多い県内市町村

第1位 倉吉市 (60,071万円) 第2位 米子市 (47,844万円)
第3位 境港市 (44,940万円) 第4位 鳥取市 (37,844万円)
第5位 北栄町 (37,014万円)

(2) 鳥取県中部地震復興がんばろう寄附 <集計期間：H28.10.22～H29.3.31>

件数：1,758件 金額：25,182万円
(内訳) 個人：1,693件、4,270万円 企業等：65件、20,913万円

(3) 熊本地震被災自治体のふるさと納税受付等代行 <集計期間：H28.5.12～H29.3.31>

件数：1,614件 金額：4,709万円
(内訳) 熊本県：631件、1,867万円 益城町：983件、2,842万円

(参考) 平成28年度鳥取県中部地震災害義援金(福祉保健課所管) <集計期間：H28.10.25～H29.3.31>
件数：6,816件 金額：27,605万円

2 平成29年度ふるさと納税パートナー企業の決定

本県への寄附者に対して返礼品を提供するふるさと納税パートナー企業を決定しました。

	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
企業数	51社	80社	138社	145社	135社
お礼の品数	61品目	145品目	287品目	333品目	357品目

3 寄附促進に向けた今後の取組

○ 県内市町村との連携

引き続き市町村と連携を取りながら広くPRを行うこととし、県外イベントなどにおいて、ふるさと納税コーナー等を設置して周知を図る。

○ さとふるによる受付を開始

ふるさと納税ポータルサイト「さとふる」によるふるさと納税受け付けを、5月後半から開始予定。(現在は「鳥取県中部地震復興がんばろう寄附」のみ受け付けている。)

4 その他

本年4月1日付で総務省からふるさと納税の返礼品について、改めて適正化を求める通知がありました。

鳥取県では従来から適正な運用をしており、是正を求められている事項に該当するものではありません。

【平成29年度総務省通知の是正を求められている事項の概要】

- ・返礼品価格が寄附額の3割を超える場合、速やかに3割以下へ
- ・ふるさと納税の趣旨に反する返礼品は贈らない
(例) 換金性の高いもの(プリペイドカード、商品券、マイルなど)
資産性の高いもの(家電、家具、宝飾品、時計、カメラなど)
- ・返礼品価格を表示しない
- ・寄附額に対する返礼品価格の割合を表示しない
- ・自らの自治体の住民に返礼品を贈らない

母子父子寡婦福祉資金貸付金の償還金等の口座引き落としの誤りについて

平成29年5月19日
財源確保推進課
青少年・家庭課
医療政策課
会計指導課

母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金（平成29年4月分）、理学療法士等修学資金返還金（平成29年4月分）及び職員宿舍貸付料（平成29年4月分）について、5月1日に貸付者の口座から引き落としをしたところ、データの誤りにより、二重に引き落としをしていたことが判明しました。誤って引き落としがなされた方には、個別に電話してお詫びと事情の説明を行うとともに、お詫びの文書を5月2日に発送しました。

1 二重引き落としとなった方の人数及び金額

事業名	人数	金額	所管課
①母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金	383人	3,499,788円	青少年・家庭課 (1人当たり9,138円)
②理学療法士等修学資金返還金	19人	684,000円	医療政策課 (1人当たり36,000円)
③職員宿舍貸付料	5人	110,800円	財源確保推進課 (1人当たり22,160円)
合計	407人	4,294,588円	

2 二重引き落としの原因

(1) 母子父子寡婦福祉資金貸付金償還金

(株)鳥取県情報センターが原課作成の口座引き落としデータを財務会計システムへ連携したが、一部住所に誤りがあったため、(株)鳥取県情報センターにてデータを修正後、再度連携処理を行った。この時、最初に連携したデータを削除しておらず、二重の引き落としとなったもの。

(2) 理学療法士等修学資金返還金及び職員宿舍貸付料

各所属の職員が財務会計システムに入力したデータを電子決裁システムに連携させたが、連携後に誤りが見つかり、再度財務会計システムにデータを入力して電子決裁システムにより決裁処理を行ったが、誤りのあったデータが削除されず、二重の引き落としとなったもの。

3 今回の事案に対する対応

(1) 対象となる方への返還

二重に引き落としを行ってしまった方へは、口座払いによる返還を5月11日(木)に行った。

(2) 再発防止策

- ・不要なデータは、財務会計システムから即時削除することを、5月10日付けで庁内に通知(会計管理者及び総務部長の連名)にして徹底を図るとともに、関係所属は通知に沿った対応を行う。
- ・システム的にも誤処理が発生しない仕組みを早急に検討する。

17食博覧会・大阪でのブース出展及びPRについて

平成29年5月19日
関西本部

4年に一度開催され、今回で9回目となる日本最大級の食のイベント「17食博覧会・大阪」(テーマ「日本の祭り・日本の味くらべ」)において、「食のみやこ鳥取県」をPRするために鳥取県ブースの出展、観光PR等を行いました。

- 1 期 日 平成29年4月28日(金)から5月7日(日)までの10日間
- 2 場 所 インテックス大阪(本県は「日本の味くらべ館(2号館)」に出展 [大阪市住之江区南港北])
- 3 来場者数 食博覧会全体 621,195人(前回656,270人/11日間)

4 本県のブース出展及びPRの概要

(1) ブース出展

ア 鳥取県による鳥取和牛、観光PRブース(2小間)

区分	日付	内容
鳥取和牛 オリジナル 料理販売	4/28(金)~5/7(日)	祇園さゝ木 ささきひろし氏 ビフカツ丼 イルギオットーネ京都店 ささじまやすひろ氏 タンの煮込み メゾン・ド・タカ芦屋 たかやまひでのり氏 煮込みハンバーグ 高山英紀氏
鳥取和牛PR	4/29(土・祝)、5/4(木・祝)	鳥取和牛(白鵬85の3、百合白清2)の試食(限定1,000食)PR
観光PR	4/28(金)~5/7(日)	県観光PR

イ 鳥取県内事業者による「食のみやこ鳥取県」PRブース(2小間)

鳥取県内11事業者が出展し、二十世紀梨関連商品や水産加工品を販売

区分	4/28(金)~30(日)	5/1(月)~2(火)	5/3(水)	5/4(木)~5(金)	5/6(土)~7(日)
小間1	NPO法人鳥取県障害者 就労事業振興センター (二十世紀梨ジャム、 板わかめ他) あじくら本舗 (金山寺みそ他)	(株)大新 (境産産ぶりの唐揚げ他) 大判焼 羽田井屋 (大判焼) (株)グリネット琴浦 (二十世紀梨ジュース他)	大山乳業農協 (牛乳、アイス他) JA 鳥取いなば (砂丘らっきょう、 アスパラガスのおかき揚げ)	大山乳業農協 (牛乳、アイス他) (株)鳥取東伯ミート (大山ルビーピタパン、 大山ルビーカレー他)	(株)日本海フーズ鳥取工場 (ハタハタ、モサエビ の唐揚げ他) (株)ふるさと鹿野 (鳥取地どりピヨ の唐揚げ)
小間2	HSJ(株)(鳥取牛焼肉丼、梨シャーベット他)				

(2) ふるさとステージでのPR

- ア 期 日 ①平成29年4月29日(土・祝) 午前11時05分から午前11時35分まで
②平成29年5月4日(木・祝) 午前11時05分から午前11時35分まで

イ 場 所 日本の味くらべ館(2号館)内「ふるさとステージ」

ウ 出演者

①平成29年4月29日(土・祝)	②平成29年5月4日(木・祝)
株式会社ジオード 代表取締役 門上 武司(かどかみ たけし) 祇園さゝ木 店主 佐々木 浩(ささき ひろし) 鳥取和牛生産者 鳥飼 育子(とりかい いくこ) 鳥取県 知事 平井 伸治	株式会社ジオード 代表取締役 門上 武司(かどかみ たけし) イルギオットーネ京都店 笹島 保弘(ささじま やすひろ) 鳥取和牛生産者 野儀 弘子(のぎ ひろこ) 鳥取県 畜産課長 岡垣 敏生

エ 内容

①平成29年4月29日(土・祝)	②平成29年5月4日(木・祝)
・鳥取市観光協会連、鳥取しゃんしゃん鈴の音大使による鳥取しゃんしゃん傘踊り ・門上氏、佐々木氏、鳥飼氏、知事によるトークショー	・鳥取市観光協会連、鳥取しゃんしゃん鈴の音大使による鳥取しゃんしゃん傘踊り ・門上氏、笹島氏、野儀氏、岡垣課長によるトークショー

5 来場者の反応及び成果

(1) 鳥取県による鳥取和牛、観光PRブース (2小間)

[反応]

- ・関西有名料理人による鳥取和牛を使ったオリジナル料理の販売では、何度も買いに来るお客様や、早い時間の完売を残念がるお客様が多く見られた。
- ・鳥取和牛の試食PRでは、「ジューシー。」という声が多かった。
- ・観光PRでは、「鳥取に行ったことがあります。」との声や、本県を訪問するための交通手段や見所を尋ねられることが多かった。

[成果]

鳥取和牛オリジナル料理が好評で、昼過ぎに完売する状況であった。また、ふるさとステージでのイベント開催日に合わせて、鳥取和牛の試食PRも実施し、鳥取和牛の美味しさをPRすることができた。今後は、鳥取和牛オリジナル料理のレシピを公開し、鳥取和牛の美味しい食べ方を紹介することにより、さらなる魅力発信に努めていく。

今回は、観光PRコーナーも併設したため、「食のみやこ鳥取県」を食と観光の視点で効果的にPRできた。



鳥取県ブース



鳥取和牛の試食PR



観光PRコーナー

(2) 鳥取県内事業者による「食のみやこ鳥取県」PRブース (2小間)

[反応]

- ・二十世紀梨関連加工品の宣伝販売では、「二十世紀梨が一番好きなので、これ買います。」、鳥取地どりピヨの宣伝販売では、「鳥取に地どりがあるのを知らなかった。食べてみよう。」、「美味しいからまた買いに来た。」など、県産食材に対して評価される声が多かった。

[成果]

各出展者が販売商品の試食等を積極的に行い、来場者に商品の美味しさを知っていただくとともに、多くの商品を購入いただくことができた。

また、出展者が、他県の出展者の販売商品や販売手法を直に見ることによって、今後の商品の改善や販売手法の見直し等のきっかけにすることができた。



出展者による宣伝販売

(3) 食博ビジネス商談会への参加 (5月1日(月)開催)

県内事業者1社が大阪外食産業協会のバイヤー(2社)と商談を実施、バイヤーから規格書、見積書の提出依頼を受けた。

名古屋における情報発信等について

平成29年5月19日
名古屋代表部

1 名古屋市 東山動植物園での鳥取県PR (実施済)

全国有数の規模を誇る名古屋市の東山動植物園において、ファミリー層の来場が多いゴールデンウィークに開催される「春まつりイベント」に参加しました。

天候に恵まれ、また、本年が開園80周年を迎え記念イベントも開催されていることから若い家族連れなどを中心に2日間とも3万人以上の来場者がある中で、鳥取砂丘・砂の美術館、三徳山・三朝温泉や大山など広く鳥取県の観光をPRしました。

- ① 日程等：5月3日(水)、4日(木) 東山動植物園(名古屋市千種区)
- ② 主催：名古屋代表部、鳥取県観光連盟
- ③ 内容：正面入り口付近でトリピーなどによるPR、砂絵づくり体験、観光資料の配布等



2 今後の情報発信等の予定

(1) 東海版「ぴあ」での鳥取県特集

- ① 掲載誌：「夏ぴあ東海版」(発行：ぴあ・9万部) 5月24日発行
- ② 発行エリア：愛知県、三重県、静岡県、長野県
- ③ 掲載内容：
 - ・鳥取県特集を8ページカラーで掲載
 - ・鳥取県へのアクセス、鳥取県の夏の魅力(砂丘、大山、三徳山、温泉、グルメなどを紹介)
- ④ その他：鳥取県の特集記事の抜き差し版を14千部作成し、高速道路SAに配架するとともに、名古屋代表部で実施するイベント等で配布します。

(2) 「砂丘らっきょうの漬け方講習会」の開催

出荷の最盛期を迎えた「砂丘らっきょう」の漬け方講習会を開催します。

J A鳥取いなばの生産者を講師に迎え、らっきょうの漬け方に加え、産地の状況やらっきょう生産の工程など砂丘らっきょうの魅力も紹介し、消費拡大につなげます。

- ① 日程等：6月2日(金) 名古屋市 東生涯学習センター(名古屋市東区)
- ② 主催：名古屋代表部、J A鳥取いなば
- ③ 受講者：中日新聞夕刊紙上で募集し、抽選の上決定します。(定員52名)
※昨年、定員の20倍以上という多くの応募をいただいたことから、今回は2部制とし、定員を2倍にしました。

【参考：昨年度の様子】



県市町村歴史公文書等保存活用共同会議の設置について

平成29年5月19日
公文書館
政策法務課

公文書館法及び鳥取県における歴史資料として重要な公文書等の保存等に関する条例の趣旨に基づき、県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用の推進について、県と市町村の一層の連携と共同での取組を進めることを目的に、「県市町村歴史公文書等保存活用共同会議」を設置しました。

1 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議の概要

(1) 設置日 4月25日(火)(第1回共同会議)

(2) 構成団体 県及び全市町村

(3) 事業

○適切な文書管理、歴史公文書等の保存・利活用の推進に関する県・市町村共同での取組、
県民への普及啓発

○災害時の連携・協力に係る検討

○会員相互の諸資料及び情報の交換

(4) 部会の設置

評価選別部会(歴史公文書等の標準的な評価選別基準の作成)と現用文書部会(標準的な文書管理手順や文書管理規程の作成等)の2つの部会を設置

2 平成29年度共同会議取組内容(第1回共同会議で以下のとおり決定)

(1) 普及啓発の推進

○歴史公文書等保存条例制定記念シンポジウム…別添チラシのとおり

ア 時期 5月23日(火)午後1時30分～午後4時20分

イ 場所 とりぎん文化会館第一会議室

ウ 内容・講演「歴史的に重要な公文書・古文書の保存と利活用とは」

講師：東洋大学教授 ^{はやかわかずひろ}早川和宏 氏

・鼎談「残された戦時記録が語り出す」

・歴史公文書等保存の重要性を普及啓発するパネル展示

○巡回企画展

ア テーマ 「歴史公文書等からみる県内地震災害(仮)」

イ 開催期間・場所 平成29年9月～10月(予定)

東部地区、中部地区、西部地区

ウ 内容 ・県及び市町村が所蔵する鳥取県中部地震、鳥取県西部地震、鳥取地震等の関連文書やパネルの展示

・公文書館専門員による展示資料に関する解説

(2) 職員の資質向上のための研修

○歴史公文書等の選別に関する研修会

○資料の保存・修復に関する研修会

○市町村への訪問指導・助言

(3) 部会による個別課題の検討

(4) 災害時等の連携・協力体制の構築

県(公文書館、博物館、図書館等)と市町村の連携・協力体制の構築

企画展「県政顧問が見た50年前の鳥取県」の開催について

平成29年5月19日
公文書館

以下のとおり企画展「県政顧問が見た50年前の鳥取県」を開催します。

1 概要

昭和40年は、鳥取県政顧問が制度化され、また全国植樹祭が開催されるなど県政にとって特徴的な年でした。本展は、東京鳥取県人会の主要メンバーから選ばれた5人の県政顧問が当時の鳥取県をどう捉え、何を助言しようとしたのかを紹介しながら、併せて当時撮影された県内各所の写真により約半世紀前の鳥取県の様子を振り返ります。

2 会期 5月23日(火)～6月25日(日) 午前9時から午後5時まで (会期中無休)

3 場所 公文書館 (館内及び県立図書館との共通通路) (鳥取市尚徳町101)
入場料は無料

4 主催 公文書館

5 内容 (章立て)

- (1) 鳥取県政顧問の始まり
- (2) 鳥取県政顧問の制度化
- (3) 鳥取東京県人会
- (4) 県政顧問会議
- (5) 『矢部貞治日記』にみる鳥取県視察
- (6) 全国植樹祭
- (7) 県政顧問の人となり
- (8) 写真でみる昭和40年頃の鳥取

【今回紹介する県政顧問】 (役職名等は就任時のもの)

○^{あだち}足立 ^{ただし}正 (境港市出身)

日本商工会議所会頭、東京商工会議所会頭、(株)東京放送取締役社長

○^{うつみ}内海 ^{きよはる}清温 (倉吉市出身)

工学博士、元電源開発(株)総裁、前総理府科学技術会議議員、総理府科学技術庁顧問、
日本建設機械化協会会長

○^{さわだ}澤田 ^{れんぞう}廉三 (岩美町出身)

元国連大使、元外務省顧問、元日韓会談主席代表、日本ビルマ協会会長、東京鳥取県人
会会長

○^{たご}田子 ^{とみひこ}富彦 (米子市出身)

元(株)神戸製鋼所副社長、蒲田振興(株)取締役社長、神鋼機器工業(株)相談役、東京鳥
取県人会名誉会長

○^{やべ}矢部 ^{さだし}貞治 (鳥取市出身)

政治学博士、元東京帝国大学法学部教授、元拓殖大学総長、政治評論家